

学びの広場

2021年3月号

体育協会からスポーツ協会へ

今日は、町のスポーツ振興を推進している松田町スポーツ協会について、吉田信男会長と府川光正事務局長からお話を伺いました。

スポーツ協会への名称変更

近年、スポーツという概念が広く人々や社会に浸透し、発展してきた経緯を踏まえ、日本体育協会が名称を「日本スポーツ協会」に変更しました。こうした日本スポーツ協会の動きに呼応するように、

松田町スポーツ協会も「体育協会」から「スポーツ協会」に名称を変更しました。そして、市町村もこうした動向に的確に対応していくため名称を変更し、令和2年4月1日「松田町スポーツ協会」



「親睦大会」と銘打って実施している10の大会の総計では、約1200人の方々の参加があります。なかでも参加人数が多い大会は、ソフトボール大会で200人を超えています。逆に参加人数が少ない大会は、卓球、バレーボール、ソフトテニス、インディアカです。開催時期や

問 教育課 学校教育係 ☎(83)7023
生涯学習係 ☎(83)7021

技術的な壁、知名度が低い点が挙げられます。今後は、大会の企画・運営の工夫をしながら、参加者の増加を図っていきたく思っています。

町の体育館内にあり、府川事務局長と事務局員の勝又さん、工藤さんが勤務しています。主な仕事は町体育館の維持管理、各種大会の実施、協会だよりの発行、協会の経理など多種にわたっています。事務局にとってうれしかったことは、親睦大会などで、「ご苦労様。今日は楽しかったです」と声をかけられたことです。準備の苦労が報われた気分になり、うれしくなりました。また、第67回足柄上郡総合体育大会で総合優勝を飾りました。松田町の心意気を感じることができた大会であり、誇りでもありました。

コロナ禍でのイベント

コロナ禍でスポーツイベントを企画・運営していく点で従来の考え方が大きく変わってきました。本町では、昨年の10月まで感染者0人でしたので、8月中旬から屋外で実施する町民親睦大会の開催に踏み切りました。開催に当たっては、参加者の1週間前からの健康チェックの徹底をはじめ、開・閉会式の簡素化や手指消毒、検温、大会後も感染の有無の追跡をしています。今後開催される予定のイベントにおいても、万全の予防対策を立てながら開催したいと考えています。

松田町スポーツ協会の事務局は、



吉田会長より

スポーツ活動は、快い汗をかき、体力の向上と精神をも解放してくれるものです。幼児から高齢者も含めて勝敗にこだわらず、自分の体力に合わせて充実した一日を送っていただきたいと願っています。スポーツ協会は、そうした皆さまの要望に少しでも応えられるような組織にしていきたいと思っています。

府川事務局長より

協会を支えている事務局

協会を支えている事務局は、

また、年間を通してさまざまな町民親睦大会を開催していますので、お友達をお誘いの上ご参加いただければ幸いです。「スポーツは生涯の友」です。ご自身にあったスポーツを楽しみましょう。



松田町スポーツ協会の旗
町民親睦スポーツ大会

- ◆ゴルフ
- ◆ソフトバレーボール
- ◆卓球
- ◆バドミントン
- ◆バレーボール
- ◆ソフトテニス
- ◆ソフトボール
- ◆パークゴルフ
- ◆インディアカ
- ◆フットサル

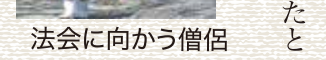
また、年間を通してさまざまな町民親睦大会を開催していますので、お友達をお誘いの上ご参加いただければ幸いです。「スポーツは生涯の友」です。ご自身にあったスポーツを楽しみましょう。

また、年間を通してさまざまな町民親睦大会を開催していますので、お友達をお誘いの上ご参加いただければ幸いです。「スポーツは生涯の友」です。ご自身にあったスポーツを楽しみましょう。

松田文化財探訪

中尾農道に沿って(五)
桜観音④(大般若経転読会②)

前回、藤井宝寿院住職の調査により大般若経寄進者とその住所が明らかになったことに触れました。寄進者数の割合を現市町村別に示すと、松田町22%・山北町26%・大井町12%・南足柄市11%・開成町10%・小田原市8%・秦野市7%となり、その外に江戸や川句村(二宮町)の名も見えます。これは当時の小田原藩の支配領域を越えるもので、かなり広範囲に寄進活動が行われたことがうかがえます。



僧侶が法会に向かう様子

また、活動の中心となった四寺院は天台宗系修験(本山派)の大蔵院以外は真言宗の寺院でした。戦国時代、小田原北条氏の保護を受けた本山派は真言宗系修験(当山派)を凌駕していましたが、しかし江戸幕府は対立する両派の内、本山派の特権を制限していきます。大蔵院と真言宗寺院との間にトラブルがあったか否かは不明です。しかし、かつて対立した二宗派の寺院が共同で活動をしていくことに感銘を受けます。

さて、この活動の中心人物は最明寺の実弁であったと思われる。その理由は実弁が末寺の宝寿院・浄蓮院住職の任免権を

持つ存在であったこと、大般若経の最初と最後の巻に彼の名が記されていたことなどです。さらに大般若経会開始2年前に松田山の西明寺(最明寺)跡地で施餓鬼会が始まるのですが、これも実弁が主導しました。この法会は西明寺開山の源延六百回遠忌を機に、実弁が藩の許可を得て、庶子・惣領・金子の三ヶ村に協力を仰いで実現させたものです。この伝統は現在も庶子自治会によって守られています。が、兎も角、実弁の宗教家としての企画・行動力には脱帽せざるを得ません。

藤井住職は「大般若経は1707年の富士山大噴火で被害に遭った足柄平野の人々が鎮魂と復興の願いを込めて奉納したものと教えていただきました。宝永の大噴火により幕領となつた足柄の全被災地が小田原藩に復帰したのは天明3(1783)年のこと。その半世紀後に転読会が始まります。人々の中によく経済的余裕が出てきたということなのでしょうか。」